曇雨天に対する農作物の技術対策

令和３年８月１７日
農　業　技　術　課

日本列島に前線が停滞し曇雨天が続いています。特に、８月１３日から雨が降り続き、今週前半も曇雨天が続く見込みのため、今後の農作物の管理に十分注意してください。

関東甲信地方週間天気予報

令和３年８月１７日気象庁発表

向こう一週間は、前線や湿った空気の影響で雲が広がりやすく、期間のはじめは雨の降る日があるでしょう。期間の後半は高気圧に覆われて晴れる所もある見込みです。なお、１８日にかけては、前線の活動の程度によっては大雨となるおそれがあります。最高気温と最低気温はともに、期間のはじめは平年並か平年より低く、かなり低い所もありますが、その後は平年並か平年より高い見込みです。降水量は、平年並か平年より多いでしょう。

１　週間天気予報（８月１７日～８月２３日）

日付	今日 17日(火)	明日 18日(水)	明後日 19日(木)	20日(金)	21日(土)	22日(日)	23日(月)
山梨県	雨時々止む	曇一時雨	曇時々晴	曇時々晴	曇時々晴	曇時々晴	曇時々晴
降水確率(%)	-/80/60/50	50/40/40/30	30	30	30	30	30
信頼度	-	-	A	A	B	C	C
甲府 最低/最高(℃)	- / 27	23 / 29	22 / 31	22 / 33	23 / 34	23 / 34	23 / 34

２　農作物の技術対策

（１）果　樹

＜共　通＞

① ほ場が滞水している場合は、速やかに排水する。

＜ブドウ＞

① 棚面の受光条件改善のため、新梢の誘引の見直しを行う。

② 同化養分の浪費を防ぎ、食味を向上させるため、旺盛な新梢を摘心したり、伸びている副梢を２～３枚残して摘心する。ただし、邪魔にならない副梢はそのままにしておく。

③ 晩腐病の二次感染を防ぐため、ほ場を巡回し発病果粒は速やかに摘粒し、園外へ持ち出すか土中に埋める。

④ べと病やさび病などの発生が心配されるので、成熟～落葉期まで葉を健全に保つため、天候が回復次第、防除暦を参考に慣行防除を徹底する。特に、欧州系ブドウでは防除を徹底する。

⑤ シャインマスカットや欧州系ブドウに黒とう病の発生が見られます。二次感染を防ぐため、ほ場を巡回し発病部は速やかに剪徐し、園外へ持ち出すとともに、防除暦を参考に慣行防除を徹底する。

＜立木果樹＞

① 日照不足とともに新梢の徒長により、翌年の結果枝の充実不良が心配される。9月は秋季剪定の時期となるため、樹冠内部や園全体が暗い場合は、徒長枝の除去により明るさを保つ。明るさの目安は、樹冠内部に３０％程度の光が入る程度とする。

（２）野菜・水稲

＜野　菜＞

①ほ場が滞水している場合は、速やかに排水する。

②ナス、トマト、キュウリでは、疫病、べと病、灰色かび病などの病害が発生しやすくなるので、病株、病葉、病果の早期除去と適切な薬剤散布により、病害発生の防止に努める。

③夏秋ナスでは、着色を促進するため密生部の枝を抜いたり、下葉の摘葉を行うとともに、葉面散布や追肥等適正な施肥管理に努め、草勢の維持と促進を図る。

④夏秋トマトでは、日照不足により結実が不安定となりやすいため、ホルモン処理により確実に着果させる。

＜水　稲＞

現状、中間高冷地の水稲は乳熟期となっている。曇雨天の影響により、いもち病の発生が拡大しており、一部のほ場では穂いもち病の発生が確認されている。

①いもち病の発生がみられるほ場では、治療効果のある粉剤や水和剤等による防除を徹底する。

②収穫は、出穂期からの日平均気温の積算温度９５０～１１００℃を目安に、ほ場ごとに黄化した籾の割合（８５～９０％）を確認し、適期に行う。

（３）畜　産

＜飼料作物等＞

①飼料作物については、排水不良が懸念されるほ場では、湿害対策のため排水の確保に努める。

②降雨により畜舎内の湿度が上昇する場合は、換気や通風を適時実施するなど、畜舎内環境の改善を図り、疾病発生予防及び家畜のストレス低減に努める。